

## 平成30年度第2回南丹市社会教育委員会議 会議録

日時 平成30年7月13日（金）午後2時～午後4時

場所 南丹市園部公民館 3階 中研修室

出席者（順不同・敬称略）

社会教育委員 宇野 齊、岡島賢峰、大嶋久美子、片山智文、北村友子、小南 仁、  
清水範子、中野愛子、原禰秀幸

市教育委員会 寺田社会教育課長、浅田課長補佐、木上社会教育係長、森 社会教育主事

傍聴人 0人

### 1. 開会

2. あいさつ 中野代表

### 3. 協議事項

これからの社会教育事業について

#### (1) 「文化力の向上」という課題に対して

「社会教育事業体系」から、(2) 「文化力向上」という課題に対して（事務局説明）

第1回会議時を含め、重要事項でもあるので改めて説明する。昨年度は、体育事業に関するスポーツ推進計画を策定した。スポーツと文化活動は生涯学習の上では大事なことと捉えている。今年度については、「文化力向上について」を検討課題とし協議いただきたいと考える。現在、文化活動を行う者の高齢化・弱体化が進んでおり、この傾向が続くと文化力が衰えてくると危惧する。そのことは文化行政の喫緊の課題。文化協会の現状や、文化団体の様々な活動を知ってもらい、文化力向上に向けて何が出来るか検討協議いただきたい。

#### (2) 文化協会の現状について

各サークルの登録人数は、年々減っている。会員の入れ替わりがないため、高齢者が抜けられない。新たな若い人の入会がない。また、サークルが役員に当たるのを嫌がり協会に入ることを避ける。文化協会の登録サークル数は増えない、人も増えない。しかし活動の場はある。

陶芸教室を開催しても同じメンバーが集まる。また、子どもが集まるようにと夏休みに事業を行ったが実際子どもの参加は少なかった。

4つの会（園部町・八木町・日吉町・美山町各文化協会）が南丹市文化協会として1つになったことをきっかけに、各町の文化祭の開催に合わせての総合開会式や、文化を知るツアーを組んでみたが各町を回ったところで終了してしまった。

(意見)

- 協会に属していないサークルが多いと思うが、そこに入れてもらえるように促しては。それには入会することのメリットをアピールする必要がある。
- どう地域で活動するサークルを発掘していくか、いかにボランティアとして市民に返していくか。それが文化の発展につながり、地域づくりに繋がっていくと思う。
- 広域な南丹市で1つになるのは交通のことも考えないといけない。それぞれが地域に根付いた活動をしていると思う。
- 文化を大きく捉えると、南丹市には多くの文化財がある。大河ドラマで盛り上がりを見せているが、観光・地域振興に繋げたい。観光部署とタイアップして宣伝してほしい。
- 情報を持つこと、地域をコーディネートすることができていない。
- 文化協会の思いを聞いてみるのもよいと思う。

#### 4. その他

- ・南丹市教育振興基本計画（素案）の確認について

#### 5. 閉会 清水副代表